

平成26年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価		学校関係者評価 学校関係者の意見
		評価指標	評価指標による達成度	自己評価	総合評価 (評定)	
小学部・中学部・高等部の一貫したキャリア教育	<p>【中期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会の中で自分らしく豊かな生活を送ることをめざし、系統的・組織的な教育活動の充実を図る。 <p>1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立や社会参加をめざし、校内における教育の充実を図る。 <p>2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会及び関係諸機関との連携のもと、実践的な教育活動の充実を図る。 <p>3年目（本年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人に応じた、支援体制の充実を図る。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人に応じた、支援体制の充実を図る。 	<p>学校全体</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部間、また地域の関係諸機関に対する移行の体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内生の学部間での引き継ぎの体制を整えるとともに、児童生徒の移行に必要な情報を教員間や地域の関係諸機関に伝えるための資料の様式も整えた。 	A	A	<p>鴨島支援学校における、これまでの「小学部・中学部・高等部の一貫したキャリア教育」に対する取り組みは、次のように評価できる。</p> <p>まず、学校の教育計画・支援体制についてである。進路指導、キャリア教育を推進するために、移行支援会議などのシステムが整えられ、福祉サービスに係る情報を計画的に保護者に提供するなど、指導体制が拡充されてきている。また、地域の社会資源を講師に招き入れる、地域の教育資源である技能検定を活用するなど、計画的・系統的な教育への導入が積極的に行われており、地域との連携も構築されつつある。これらの取り組みを評価するにあたっては、教育課程や支援体制などをいかに進めたのか、教員がどうであったのかという評価だけでなく、児童生徒のキャリア発達にどのようなつながったのかという観点からの評価も合わせて行うことが大切であろう。</p> <p>次に、指導実践についてである。参観した授業において、個々の生徒のキャリア発達が促されていることが看取できた。このことは、進路指導、キャリア教育に係る計画的な実践によって、学習成果が累積されたためであると推察される。今後については、児童生徒の障がい特性に、より一層配慮した授業作りを進める必要がある。例えば、学習の振り返りは「その場」がポイントになる。障がいのある児童生徒は、経験を後で</p>
		<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人に対して、学習目標に関するケース会を年間2回以上行う。 児童一人一人に対して、校内や地域等へのスムーズな移行のための、実態に係る引き継ぎ資料の作成を行う。 中学部等へのスムーズな移行を図るため、高等部の進路発表会を2回以上見学する。 <p>-----</p> <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に対して、学習目標に関するケース会を年間2回以上行う。 生徒一人一人に対して、高等部等へのスムーズな移行のための、実態に係る引き継ぎ資料の作成を行う。 高等部へのスムーズな移行を図るため、高等部の進路発表会を全員で、2回以上見学する。 <p>-----</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に対して、学習目標に関するケース会を年間2回以上行う。 生徒一人一人に対して、地域へのスムーズな移行のための、実態に係る引き継ぎ資料の作成を行う。 就労支援センターと連携し、就労に必要な力を育む授業に関する検討会を年間2回以上行う。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケース会 100% 児童の学習目標に関するケース会については、学部全体のケース会を各学期1回以上実施して、学習グループでのケース会も1人3回以上行った。 資料作成 100% 児童全員について、引き継ぎのための資料を作成できた。 進路発表会参加 100% 5名の児童が参加し進路に向けた学習を意識することができた。運動会や文化祭では、他学部の様子見学することで、中学部等への移行のための準備を、個々に応じて実施できた。 <p>-----</p> <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進級に向けて、今後の学習支援の在り方や生活面における支援についてのケース会を2回以上実施することができた。 実態に係る引き継ぎ資料を、個別の教育支援計画に資料を一部追加する形で行った。 高等部の就業体験発表会や3年生進路発表会を、3回見学することができた。 <p>-----</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目指す将来像や、そのための学習目標を確認し、共通理解を図るケース会を4回行った。 生徒の実態や支援の手立てを整理してまとめた資料を作成した。 「障がい者就労支援センターかがやき」の職員の方を招き、作業的な学習の授業に関する検討会を2回実施した。 	A	<p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人についてケース会を複数回開くことで実態やニーズを教員が情報を共有でき、自立や社会参加に向けた適正な指導や支援を行うことができた。 小中学部においては次学部への移行に向けて、引き継ぎ資料を作成するとともに、校内支援会議を開催し、円滑に引き継ぐことができた。 高等部では、個々の生徒についてケース会議を開き、進路決定に向けた取り組みを行うとともに、高3生について関係諸機関を交えた移行支援会議を開き、卒業後の支援体制等について話し合うことができた。 施設の方を招いて「お菓子づくり体験」や高等部の進路学習を見学するなどの進路に関する学習や県教委主催の「ゆめチャレ 	

	活動計画	活動計画の実施状況		
学校全体	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や積み重ねてきた取り組みなど、教員間また関係諸機関との共通理解を図る機会を整備し、また引き継ぎのための資料を、児童生徒一人一人の実態に応じて作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き継ぎのための会や他学部への授業見学を実施するなど、校内の移行支援の体制も整備され、児童生徒の実態や支援の手立てを記載した引き継ぎ資料も作成した。 		
各学部	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部卒業時の目標を学習に反映させるため、教員間で共通理解を図る機会としてケース会を実施する。 中学部等への進学や施設利用等に必要な情報を整理し、引き継ぎに役立つ、児童の実態に応じた資料を作成する。 年数回ある高等部の進路発表会に、できる限り参加し、高等部の様子を見たり、教員が進路を確認したりすることにより、中学部等へのスムーズな移行を図る。 <p>-----</p> <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部への進学や、卒業後の生活に向けた目標を学習に反映させるため、教員間で共通理解を図る機会としてケース会を実施する。 高等部への進学等に必要な情報を整理し、引き継ぎに役立つ、生徒の実態に応じた資料を作成する。 年数回ある高等部の進路発表会に、できる限り全員で参加し、高等部の様子を見たり、進路を確認したりすることにより、高等部へスムーズな移行を図る。 <p>-----</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活に向けた目標を学習に反映させるため、教員間で共通理解を図る機会としてケース会を実施する。 社会参加に必要な情報を整理し、関係諸機関への引き継ぎに役立つ、生徒の実態に応じた資料を作成する。 実習による現場での体験的な活動と、本校での作業的な学習を参観していただく中で、就労支援センターの職員の方の意見を授業作りに反映させる。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期に学部全体のケース会を1人1回以上実施した。また、学習グループでも、各学期2回のケース会を実施して、共通理解を図ることができた。 学級担任を中心に、小学部児童10名について、中学部等への進学や施設利用等に有用な移行支援(引き継ぎ)の情報を作成することができた。 行事の様子や高等部施設を見学した。他の取組としては、進路学習「お菓子づくり体験」で、「マドレーヌ作り」体験をとおして、児童が授産施設の職員と関わったり、施設についての話を伺うことができた。 小学部職員が、施設や放課後等デイサービス事業所を見学したり、進路研修会に参加することで、進路先をイメージしながら中学部等への移行準備を行うことができた。 <p>-----</p> <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部への進学や、卒業後の生活に向けた目標を学習に反映させるために、教員間で共通理解を図る機会としてケース会を実施した。 引き継ぎに役立つ生徒の実態に応じた資料を、個別の教育支援計画に、実態に対する支援の手立てを加えて作成した。 高等部の進路発表会に全員で参加し、1・2年の生徒に関しては就業体験発表会より高等部の生徒が進路を決定していくまでの体験の様子を知ることができ、3年生に関しては、進路に対して意識(確認)をするきっかけとなった。 <p>-----</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部教員全体やグループに分かれるなどしてケース会を行い、本人や保護者が希望する卒業後の生活に向けての学習目標について共通理解を図り、意見や情報の交換を行った。 生徒の実態を整理するとともに配慮事項や支援方法、また移行に必要な情報をまとめた引き継ぎ資料の様式を検討し作成した。 「障がい者就労支援センターかがやき」での実習や本校での授業参観を通して、適切なアドバイスをいただき、対象となる生徒の実態に応じた授業内容や教材の開発に役立てることができた。 	<p>ンジフェア」への中学部生が参加などにより、小中学部の児童生徒も早い段階から進路について考えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高3生を中心に施設及び職場での実習を行うことで、進路決定に向けた意識を高める事ができた。 	<p>まとめて整理することが苦手な者もいる。キャリア発達の観点から、学習後の振り返りを累積していくような指導や支援が必要であると考えられる。</p> <p>最後に、キャリア教育実践の進展についてである。このためには、校内の現職教育だけでなく、個々の教員が自主的に校外での研修の機会を設定するなど、日々の研鑽が必要である。そのことにより、キャリア概念のさらなる理解と実践の深化に期待したい。キャリアの個別性は一人一人を大切にとか、自己決定といっただけを意味するのではなく、主には一人一人のかけがえのない人生は、たとえ保護者であっても、他の者が取って代われるものではなく、それぞれに独自性を持っているということである。進路決定に向けた働きかけは、多くのバリエーションがあり、広がりがないといけない。二者択一のような選択の余地が狭いものではなく、多くの可能性があることを教員が伝えていけるようにしたいものである。</p> <p>次年度に残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間に渡る取り組みによって培われた、小中高の各学部が同じベクトルで進路決定に向けた取り組みを行う体制を維持していく。 小中学部といった、早い段階からの進路意識の高揚を図る。 卒業後に地域社会の中で自分らしく豊かな生活を送るために、種々の環境整備に向けて関係機関との連携を深める。

平成26年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標による達成度	自己評価	総合評価	（評定）		
地域と連携した 防災教育	<p>【中期目標】</p> <p>地域及び関係機関と連携した防災教育の充実を図る。</p> <p>1年目 教職員の防災意識の向上を図る。</p> <p>2年目 防災対策の充実を図る。</p> <p>3年目 実践を通して防災対応力を高める。</p> <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の防災対応力を高める。 ・地域防災組織との連携を深める。 ・学部及び児童生徒の実態に応じた防災教育の充実を図る。 	学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対応力向上に向けた研修等を年3回実施する。 ・近隣や地域と連携した実践的な防災活動を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の講師を招いた研修を3回実施した。 ・隣接する病院に避難訓練（2回）時の応援依頼や協力の要請をした。敷地地区防災訓練に職員代表が参加した。 	A	A	<p>・3年間、いろいろとアドバイスを行ってきたが、指摘した点は、ほとんど解決できたと思う。</p> <p>・避難経路、近隣施設との連携、アクションカードを用いた災害時の教員の臨機応変な対応など防災に関する道筋ができています。各学部の熱心な取り組みを切らさない事が大切である。</p> <p>・今までに行ってきた防災に関する取り組みを継続して行って欲しい。</p>	
		各学部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた防災活動を年3回以上行う。 ・交流及び共同学習など、あらゆる機会をとらえ、児童生徒の実態や活動の様子を年3回以上情報発信する。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災活動については、階段避難シミュレーションをはじめとして、保護者との防災バックの中身検討、各教科において防災学習と関連した取り組みをおこなうなど、年間3回以上の実施ができた。 ・情報発信については、学校祭、交流及び共同学習、ふれあい交流会等でのパネル展示をおこなった。 <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災活動については、オリエンテーリングや防災グッズの体験、非常持ち出し袋の中身の点検、炊き出し等をおこなうなど、年間3回以上実施できた。 ・情報発信については、学校祭、交流及び共同学習、ふれあい交流会等でのパネル展示をおこなった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を年間5回実施した。 ・学校間交流や地域交流の場で、防災に向けた取り組みの様子をホームページやパネル展示で年間6回情報発信した。 	A	A		<p>（所見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部ともに、評価指標に示された回数をもとに活動に取り組み、目標を達成することができた。 ・防災活動については昨年及び一昨年の取り組みをベースに、児童生徒の発達段階や必要とする支援の度合いに応じた取り組みがなされた。 ・児童生徒の活動の様子を情報発信することにより、災害発生時の本校への支援の在り方について理解していただくことができている。 ・保護者、関係機関、地域の方々との連携がより一層深まった。 ・3年間をとおした取り組みにより、防災に対する意識が高まることはもとより、非常時の対応の持ち方が全
		学校全体	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会や講習会に参加し、本校の実態に即し、災害種類に応じた防災対応力を高める。 ・避難訓練や防災学習、研修会等を通して、近隣施設とさらに連携を深め、協力体制を充実させる。 	<p>活動計画の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大地震発生時の対応と児童生徒への支援、災害時の要援護者対策、災害発生時における最適な判断について、具体策を学ぶことができた。 ・通学路の調査をし、防災マップをもとに危険箇所を確認をした。災害時に児童生徒を一時的に学校で待機させた場合を想定し、引き渡しの手順や「引き渡しカード」の活用について検討した。 ・年2回の避難訓練の前にアクションカードを用いて各自の役割や動きを確認するとともに、実施後に自己評価表の記入によりチェックすることで、災害への対応力を高めた。 ・隣接する施設や病院、地元自治会や建設業者の方々に避難訓練や防災研修会やオリエンテーリング等に参加していただき連携を深めた。 	A	A		

		<p>各学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた防災に関する学習を積み重ね、防災対応力の向上を図る、 ・児童生徒の防災活動の様子を写真や文章にまとめ、展示するとともにホームページに掲載するなど、広く地域社会に発信する機会を設け、理解と啓発に取り組む。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段避難シミュレーションを2回おこなうなど、児童実態や学部の室内環境、人的条件などを考慮した現実的な防災学習を実施した。 ・国語での防災紙芝居、算数での防災絵合わせゲームなど児童が理解できる手立てで、継続的な学習もおこなった。 ・学校祭、ふれあい交流会等の行事においてのパネル展示や学部集会でおこなった防災学習をホームページで掲載する等の情報発信をおこない、保護者や地域社会への理解や啓発を促した。 <p>-----</p> <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の地形や地域の様子を知るためのオリエンテーリングや学校の防災グッズを実際に使ってみたり栽培した野菜を使って屋外での炊き出しを体験したりした。 ・クラスで防災のDVD視聴や非常持ち出し袋の中身の点検、非常食の確認を行った。 ・学校祭、ふれあい交流会等の行事においてのパネル展示や防災学習をホームページで掲載する等の情報発信をおこない、保護者や地域社会への理解や啓発を促した。 <p>-----</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日において、保護者とともに非常食の体験及び避難訓練(予告なし)を行った。 ・地元の自治会の方に参加していただき、オリエンテーリングや避難訓練時に救助依頼をするなどして地域との結びつきを深めた。 ・学部の防災学習において、暑さ対策・仮避難所体験・防災備品の活用・野菊の里に避難・防災クロスロード・寒さ対策、・応急処置・簡易タンカの作り方などの体験や活動を行い、実践力を高めた。 ・各学校行事やホームページを通して、地域社会に取り組みの紹介を行った。 	<p>職員に浸透している。2月6日に発生した地震(県南を震源地とし、牟岐町で震度5強を記録。吉野川市は震度3であった)においても、慌てることなく迅速に避難することができた。日々の取り組みが活かされたと感じている。</p>	
--	--	---	---	--	--